

# 社会学部 社会学科 (令和8年度入学生) 履修系統図

## 「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)

### 【教育課程の編成、教育内容】

社会学科は、現代社会で活躍しうる能力・資質の形成を目指して、人間・社会、地域・メディア、心理、歴史の4コースを編成し、基礎から応用まで段階的かつ横断的に授業科目を配置します。また、4年間一貫した少人数制の演習科目を設定し、ICTを活用した、主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)を実践します。

- 1) 演習: 主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)を少人数制で実践し、自らの考えをわかりやすく伝え、積極的にコミュニケーションをとることで、他者と協働しながら課題を解決する力を養います。1年次では「大学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、2年次では「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、3年次からの「演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」では2年間継続して同じゼミ教員のもとで「卒業研究」に取り組みます。
- 2) 人間・社会コース: 社会学的なものの見方や考え、調査・分析方法を身につけ、社会学の基本を学びます。1年次必修科目として「社会学概論」、「社会病理学」が設定されており、2年次以降、自由に選択科目を履修することができます。また、社会調査士の資格を取得するための科目群を設けます。
- 3) 地域・メディアコース: ローカルからグローバル、メディアを媒介したもので、人と人とのつながりを通して社会や文化を読み解く力を養います。1年次必修科目として「文化研究概論」が設定されており、2年次以降、自由に選択科目を履修することができます。上記コース同様、社会調査士の資格を取得するための科目群を設けます。
- 4) 心理コース: 人の心や行動の原理を知り、人間関係に対処する力を身につけます。1年次必修科目として「入門心理学」が設定されており、2年次以降、自由に選択科目を履修することができます。また、認定心理士の資格を取得するための科目群を設けます。
- 5) 歴史コース: 歴史的事実を分析・解明し、幅広い角度からものごとをとらえる視野を身につけます。1年次必修科目として「入門歴史学」が設定されており、2年次以降、自由に選択科目を履修することができます。また、中学校社会や高校地理歴史・公民の教員免許、博物館学芸員の資格を取得するための科目群を設けます。

### 【教育方法】

社会学科では、各授業科目の教育内容に応じて、以下のような形式を組み合わせた多様な教育方法で授業をおこないます。

- 1) 講義形式: ICTや映像資料などを活用しながら、本学科の学びに関する多様な教養や知識を身につける。
- 2) (フィールドワークを含む) 実習形式: 自らの興味関心に即して課題を設定し、ICTを活用しながら調査・分析する技能を身につける。
- 3) 演習形式: 主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)を少人数制で実践し、自らの考えをわかりやすく伝え、積極的にコミュニケーションをとることで、他者と協働しながら課題を解決していく力を身につける。

### 【学修成果の評価方法】

1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーに基づいて評価を行う。

2) 講義や演習科目で培われた知識や技能、能力を十分に発揮できているか、学生による自己評価も踏まえ、量的側面・質的側面の両面から適切な方法を用いて総合的に評価する。

身につけるべき能力	分野	1年次	2年次	3年次	4年次
① 関心・意欲・態度 ローカルからグローバルまでさまざまなレベルで生じている個人や社会の問題に対して、意欲的に取り組み、創意工夫しながら乗り越えていこうと試みることができる。	学科共通	社会学概論	社会学理論Ⅰ	社会学理論Ⅱ	
	人間・社会	法学(国際法を含む)	経済学	産業社会学	ジェンダー論
	地域・メディア	哲学概論	家族社会学	家族関係論	ビジネス情報論Ⅰ
	心理	マス・メディア論	宗教学	ジャーナリズム論	マーケティング論
	歴史	国際問題論	文化研究概論	エンターテインメント論	ポピュラー音楽論
② 知識・技能 人間や社会、地域やメディア、心理、歴史に関する領域の専門的な理論や調査・分析方法を身につけ、課題解決のために活用することができる。	学科共通	社会調査法	実験・調査データ処理	資料・データ分析	社会統計学
	人間・社会	情報処理実践演習Ⅰ	情報処理実践演習Ⅱ	標本調査法	質的調査法
	地域・メディア	社会病理学	犯罪社会学	刑事司法の社会学	社会政策論
	心理	現代社会学	社会意識論	社会階層論	社会政策論
	歴史	地域開発論	まちづくり論	地域社会学	社会政策論
③ 思考力・判断力・表現力 自ら設定した課題に対して、上記の理論や方法、さらにICTを活用して情報を収集し、さまざまな角度から論理的かつ横断的に考察し、その成果をわかりやすく表現することができる。	学科共通	フィールドワーク入門	フィールドワーク演習	社会調査実習A	社会調査実習B
	心理	心理学実験法	心理測定法概論	心理学基礎実験Ⅰ	心理学基礎実験Ⅱ
	歴史	博物館概論	生涯学習概論	博物館教育論	博物館展示論
				博物館資料論	博物館経営論
				博物館情報・メディア論	博物館資料保存論
④ 主体性・多様性・協働性 多様化する現代社会において、さまざまな立場の存在を認めながら積極的にコミュニケーションを図り、自らの考えをしっかりと伝え、他者と協働することができる。	学部・学科共通	大学基礎演習Ⅰ	大学基礎演習Ⅱ	基礎演習Ⅰ	基礎演習Ⅱ
				演習Ⅰ	演習Ⅱ
				演習Ⅲ	演習Ⅳ
				卒業研究	
				キャリアマネジメントⅠ	キャリアマネジメントⅡ

# 社会学部 人間福祉学科 (令和8年度入学生) 履修系統図

## 「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)

### 【教育課程の編成、教育内容】

人間福祉学科は、社会福祉学の要素は理念や理論だけでなく実践であるため、アウトリーチ、ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発に関する能力修得など実際に活用ができるカリキュラムを編成し、現場での学修およびそれに資する教育の機会を核として、講義と演習がそれを支える教育形態とします。さらに、医学、心理学、社会学、介護学などの隣接領域の基本的な知識も修得します。

- 1) 1年次** 自己覚知、倫理、価値等の学修を行い、ソーシャルワークの価値・原則・倫理について理解し、社会福祉活動への関心を高めるために、「大学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ」を配置します。基本的な面接技術について、視覚教材や模擬的な実践によって修得するために「ソーシャルワーク演習Ⅰ」を配置します。「医学概論」「臨床心理学」「社会学と社会システム」「福祉法学」などの隣接領域も学修します。
- 2) 2年次** 社会福祉の専門知識と技術を修得するために「高齢者福祉」「障害者福祉」「児童・家庭福祉」「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ～Ⅳ」「地域福祉と包括的支援体制Ⅰ・Ⅱ」などの社会福祉領域の専門科目を履修。「ソーシャルワーク演習Ⅱ・Ⅲ」「ソーシャルワーク実習指導A・B」「ソーシャルワーク実習A」では講義科目との関連性を持たせ相談援助の展開方法について学ぶ。ソーシャルワーク業務の実践について具体的かつ実践的に理解し、実践的な技術を体得します。
- 3) 3年次** 「ソーシャルワーク実習B」において、相談援助に係わる知識と技術について、具体的かつ実践的に理解し実践的な技術を体得する。「ソーシャルワーク演習Ⅳ・Ⅴ」「ソーシャルワーク実習指導C」において、ソーシャルワーカーに求められる資質、技能、倫理、自己覚知等を深め、総合的に対応できる能力を修得し、実践と理論の一体的な理解を深めます。
- 4) 4年次** 「人間福祉演習Ⅲ・Ⅳ」等を履修し、利他の精神に基づいて、人とのつながりを大切にしながら人と社会の在り方を多角的に考察する力を身につけ、社会福祉に関する専門知識・技術を活用することによって社会に貢献でき、現状に安住せず堅実かつ柔軟な思考で不断の刷新を図ることができる能力を修得します。

### 【教育方法】

- 1) 講義・演習・実習等の授業形態を組み合わせた授業を実施し、いずれにおいてもアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れる。
- 2) 演習においては、社会活動やフィールドワークを通して、課題解決を目的とするアクティブ・ラーニングを1年次から3年次まで段階的に取り入れる。
- 3) 実習やインターンシップにおいては、社会福祉実践現場において専門知識と専門技術の統合を1年次から3年次まで段階的に図る。
- 4) 実習においては、1年次から3年次まで実習報告会に参加し、学生の実習経験に応じた相互教育の機会を取り入れる。
- 5) 講義と演習を組み合わせた資格取得支援を目的とする授業を実施し、社会福祉専門職に求められる専門知識の定着を図る。
- 6) 3年次から4年次の少人数のゼミにおいては、社会福祉に関する個別的な関心に沿って主体的な学修を促す。

### 【学修成果の評価方法】

- 1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価する。
- 2) ディプロマ・ポリシーを目標とする学生自身の自己評価を1年次の評価から実施する。
- 3) 講義においては、小テストや期末テストを実施して、到達目標の達成度を評価する。
- 4) 演習・実習・インターンシップにおいては、ルーブリックを用いて、学生自身が学修成果のリフレクションを行う。
- 5) 演習・実習・インターンシップ等においては、学生同士の相互評価やフィードバックを活用して評価する。
- 6) 実習においては、実習指導者による評価を部分的に活用し、学生が修得した能力について複数の教員によって評価を行う。
- 7) 学修ポートフォリオを用いて、1年次の大学基礎演習から3年次のソーシャルワーク実習Bまで縦断的な評価を行う。
- 8) 1年次と3年次にPROGテストを実施し、コンピテンシーの評価を行う。

